

放っておけないという想いをカタチにしませんか

神奈川県立保健福祉大学 顧問
山崎 美貴子さん

明治学院大学教授・副学長、神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部長を歴任し、2007年4月1日から、神奈川県立保健福祉大学学長を務める。2011年3月末で学長を退任し、現在、神奈川県立保健福祉大学顧問であり名誉教授。1986年に東京ボランティア・センター（現在の東京ボランティア・市民活動センター）所長に就任。日本福祉教育・ボランティア学習学会会長、「広がれボランティアの輪」連絡会議会長などを務めてきた。東京災害ボランティアネットワーク共同代表。



経済的な理由などで満足に食べることのできない子どもへの食事の提供や、地域との交流促進など、さまざまな目的で運営されている「子ども食堂」。現在急速に全国で広がっている子ども食堂の話を中心に、社会的孤立や子どもの貧困について、神奈川県立保健福祉大学顧問であり、「広がれ、子ども食堂の輪！」推進委員会委員長でいらっしゃる山崎美貴子さんにお話を伺いました。

「子ども食堂と関わることになったきっかけを教えてください。」

豊島区に「豊島子どもWAKU WAKUネットワーク」というNPO法人を立ち上げ、子ども食堂などの活動をしている栗林さんという女性から「食堂ができたんだけど、あちこちにぼつぼつとついているので、これをつなげたい。そして、全国各地の仲間とつながっていきたい。どうしたらいいだろう、力を貸してください」と相談されたことが始まりです。彼女は長年地域の中でボランティア活動をされてきた人なので、地域の子どもの実情をよく知っています。彼女は学習支援の活動をしていく中で、子どもた

「子ども食堂に関わることでみてきた、子どもたちの状況について教えてください。」

今、食文化の文化が変わってきています。コンビニに行けば300円のお弁当や100円のおにぎりが買えます。だから、食事を手作りする人や家族でテーブルを囲んで食べるという文化が、どんどん衰退してしまっています。また、子ども食堂に来る子どもたちに話を聞くと、体験が極めて少ないことが分かります。例えば、電車に一度も乗ったことがない、親と一緒に家族旅行をしたことがないなどです。

「子どもだけでなく社会全体でもつながりの希薄化が、課題となっていますね。」

むことを分けてみてください。さらに、「本場に必要ない人が、子ども食堂に来ているだろうか」ということも考えなくてはいいかもしれません。どうしたら本場に必要ない人、子ども食堂の情報が届くだろうか。例えば、学校の先生にお願いしてみる。さらに学校にスクールソーシャルワーカー（※）の配置が進められてきているので、その方にお願ひしてみます。あるいは、民生委員・児童委員にお願いする。つなぎ手を探さないと、この活動は広がらないです。「あそここの飯はおいしいよね」というところから始めて、必要なつなぎ手を介することで食堂によっては学習支援などに結びつくこともありますね。

また、閉じた環境をつくらないで、連絡会をつくることも大切ですね。その中で、透明性に留意しながら課題解決を模索して、お互いの強みを生かします。最後に、専門職の協力を得ること。保健師や社協、地域包括支援センターの職員、保育士など、いろいろな人から知恵をいただいでください。

「最後に、読者の皆さんへメッセージをお願いします。」

大事なのは、「共に生きる」を実

ちから、お腹が空いていることや、家でお母さんの手作りのご飯を食べたことがないという話を聞き、次第に、「ご飯と一緒に食べる？」とカレーライスや、ハンバーグなどの食事を提供し始めました。「私は、究極のおせっかいです。ただの主婦」と、彼女はよく言うのですが、おせっかいいというよりも、ちょっとつらいなと思っている人を放っておけない人なのです。

「放っておけないよね」から「どうしよう」と考え始める。私はそこから、地域づくりが始まるのではないかと考えます。一人でも多く、そういう思いを持つ人が増えたいですね。

「放っておけないよね」から「どうしよう」と考え始める。私はそこから、地域づくりが始まるのではないかと考えます。一人でも多く、そういう思いを持つ人が増えたいですね。今年「放っておけないよね」と思ってくれる人を一人でも増やそうという「放っておけない運動」をしたいと思っています。

また、自分が所属する集団がない人も増えています。親戚、友だち、趣味の仲間や、町会・自治会、どこにも所属していない。つまり、社会的なつながりがありません。こういう人たちは、私は一人ぼっちと表現しています。一日中、誰とも話をしないで、口がカラカラになってしまう。これは本当のところだと思います。中には、社会的な支援が必要な人もいます。サービスの利用方法が分からない、居場所を見つけない、居場所がない、などそんな人が増えています。今、東京ボランティア・市民活動センターでは、居場所づくり運動というものをしています。例えば、

一人一人が緑の下の力持ちです。個人の気付きに丁寧な耳を傾け、その思いをみんなで共有しましょう。互いの気付きを共有する力こそが、つなぎ合い・支え合いの入り口だと思います。全国各地に行きますと、積極的に活動されている方々に出会います。私自身も、皆さまと一緒に、心をつなげて、つなぎ合い・支え合いの力を、より強くしていきたいと思っています。

放っておけない、ひとごとではない、という想いをカタチにしませんか。 ※子どもの家庭環境による問題に対処するため、児童相談所と連携したり、教員を支援したりする福祉の専門家。



「子ども食堂は、子どもにとっても安心できる居場所になっていくのです。それが、とても大事なことです。」

この魔法を使って、地域の中で、さまざまな食堂が生まれてきました。埼玉県の中にも、もう80カ所以上できています。

また、子ども食堂は、誰でも参加することができる居場所です。子ども食堂が最近、地域食堂というように名前を変えているところがあります。今まで高齢者だけを対象にしていたところが、「子どもと一緒に食べようよ。それから、障害のある人も一緒にうれしいね」というようになり、そこが地域の拠点になっていく。食事というのは、そういう魔法の力がある。接着剤になるんですね。



2018年1月19日に県社協含む4者共催で行われた、共生・共助つながりづくりフォーラムで講演いただきました。



具販売・販売用
レンタル・販売用
住宅リフォーム
サービス・ふあいん
手すり1本からお取り付けします。
介護保険対応のカタログをお送りします。
「10月1日」は福祉用具の日です。
Silver
HOXON シルバーホクソン
〒332-0032 川口市中青木2-22-34
フリーダイヤル 0120-65-4649
介護保険指定事業者番号1170200222

福祉用具貸与・販売 / 住宅改修
訪問介護サービス
一級建築士事務所登録 第10264号
建設業許可番号 許可(設-21)第04152号
家業を継いで30年
福祉のニツカ
専門相談員が心のこもった相談に応じます
介護保険事業所番号 1171200213
マルマルクック
日科三科株式会社 0120-002940
三郷営業所 / 三郷市早稲田3-8-1 産成ヘルパーステーション / 三郷市産成3-7-12-101
流山営業所 / 流山市平和台3-2-41 産成介護相談室 / 三郷市産成3-7-12-101
葛飾営業所 / 葛飾区亀有4-25-8 早稲田介護相談室 / 三郷市早稲田3-8-1
洗浄消毒センター / 三郷市早稲田8-25-6 本社 / 三郷市早稲田3-16-5